
**2013年3月期
第1四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

帝人株式会社

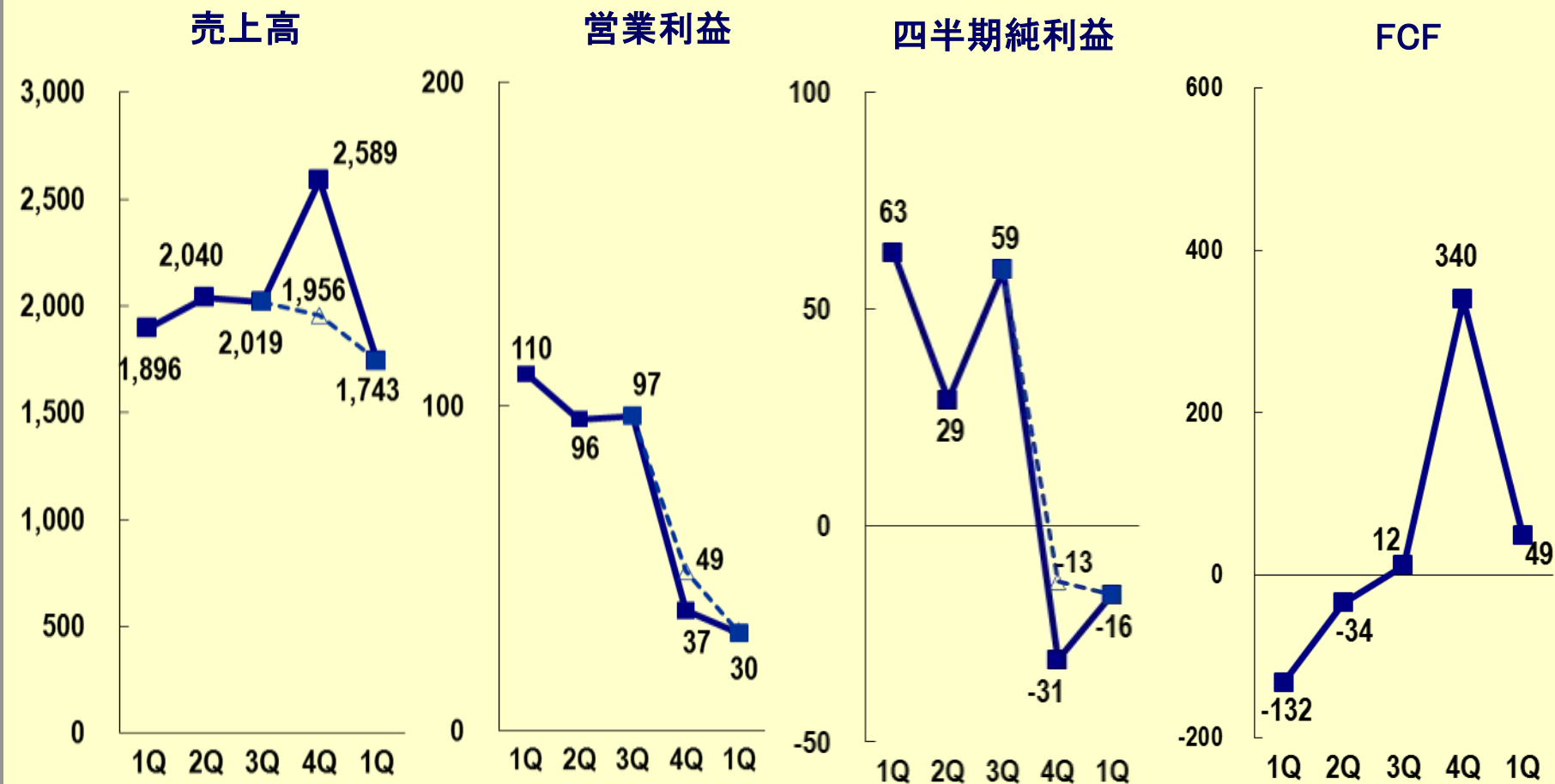
2012年8月2日

第1四半期決算概況

(1) 2013年3月期 第1四半期決算概況

(億円)

四半期推移



* △は決算期統一影響を除いた額

◆ 経営成績

(億円)	11年度 1Q	12年度 1Q	差異 金額
売上高	1,896	1,743	-152
営業利益	110	30	-81
<営業利益率>	5.8%	1.7%	—
営業外損益	18	-8	-25
経常利益	128	22	-106
特別損益	-1	-25	-24
税金等調整前 四半期純利益	127	-3	-130
法人税等	59	16	-43
少数株主損益	5	-2	-7
四半期純利益	63	-16	-79
EPS(円)	6.38	-1.66	-8.04

EBITDA *1	225	143	-82
設備投資 *2	50	80	+30
減価償却費	114	114	-1
研究開発費	72	76	+4
FCF	-132	49	+182

➤ 売上高・営業利益：

主として欧州債務問題の影響、薬価改定等により減収・減益

➤ 経常利益減：持分法による投資利益減少

➤ 純利益減：特別損益悪化

◇ PL換算レート

	11年度 1Q (1~3月)*	12年度 1Q (4~6月)
円 / 米ドル	82	80
円 / ユーロ	113	103
米ドル / ユーロ	1.37	1.28

* 決算期統一前のため、1Qは1~3月のレートを使用

◆特別損益等

(億円)	11年度 1Q	12年度 1Q	差異 金額
固定資産売却益	0	1	+0
関係会社株式売却益	7	—	-7
その他	2	0	-1
特別利益計	9	1	-8
固定資産除売却損	0	2	+1
投資有価証券評価損	—	8	+8
減損損失	0	7	+6
震災関連費用	4	—	-4
洪水関連費用	—	9	+9
その他	5	0	-5
特別損失計	10	26	+16
特別損益計	-1	-25	-24
法人税等	59	16	-43
少数株主損益	5	-2	-7

➤ 特別損益悪化: ▲24億円

- ・タイ洪水災害関連費用 9億円
(主に設備復旧費用)
- ・投資有価証券評価損 8億円

➤ 法人税等

- ・税前利益 ▲3億円



のれん償却
持分法利益等 控除

課税所得 プラス
⇒法人税等 発生

◆財政状態

(億円)	12年3月末	12年6月末	差異
総資産	7,621	7,397	-224
自己資本	2,920	2,798	-123
有利子負債	2,610	2,547	-63

内 為替 換算影響
-137
-51
-53

➤ 総資産減少:

- ・受取手形及び売掛金残高減少
- ・減価償却進捗により固定資産減少

➤ 自己資本減少:

- ・四半期純損失計上、配当支払

➤ 有利子負債減少:

- ・円高により外貨建て負債の円換算評価額減少

D/Eレシオ	0.89	0.91	+0.02
自己資本比率	38.3%	37.8%	-0.5%

◆キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動 他	現金及び 現金同等物 増減
12年度 1Q	+140	-91	+49	-37	+13
11年度 1Q	-80	-53	-132	+93	-39

◇BS換算レート

	12年 3月末	12年 6月末
円 / 米ドル	82	79
円/ユーロ	110	99
米ドル/ユーロ	1.34	1.24

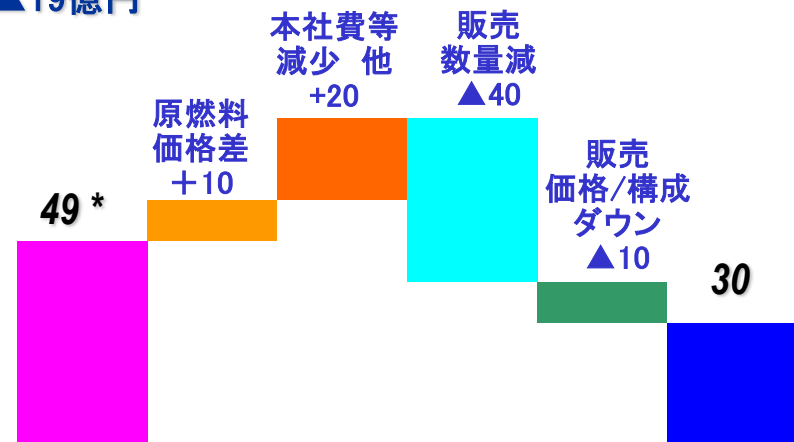
* キャッシュフローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

◇ 営業利益

(億円)

▲19億円

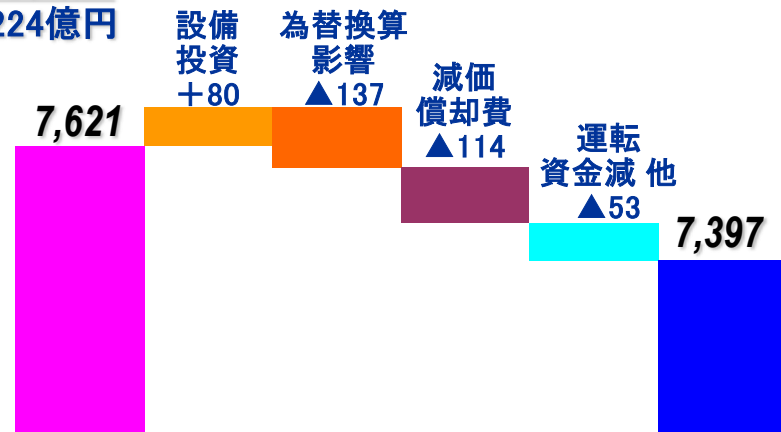


'11.4Q * 決算期統一影響除き

'12.1Q

◇ 総資産

▲224億円



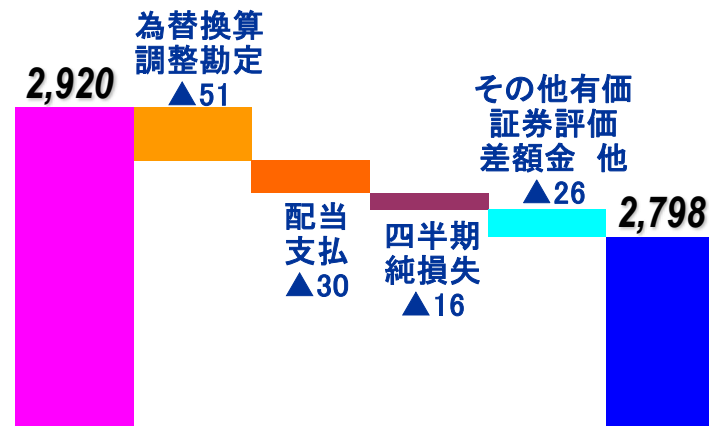
'12.3

'12.6

◇ 自己資本

(億円)

▲123億円

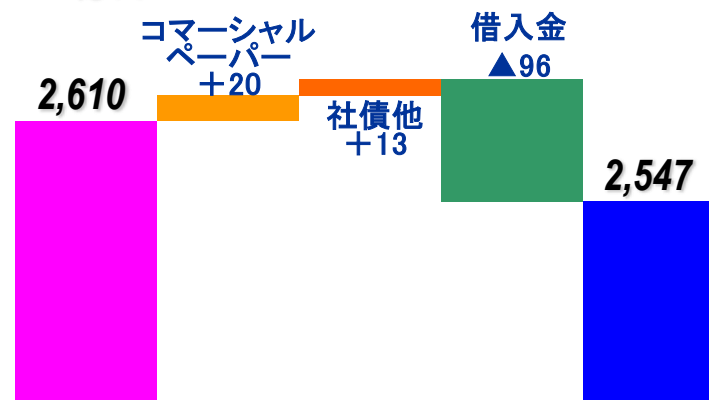


'12.3

'12.6

◇ 有利子負債

▲63億円



'12.3

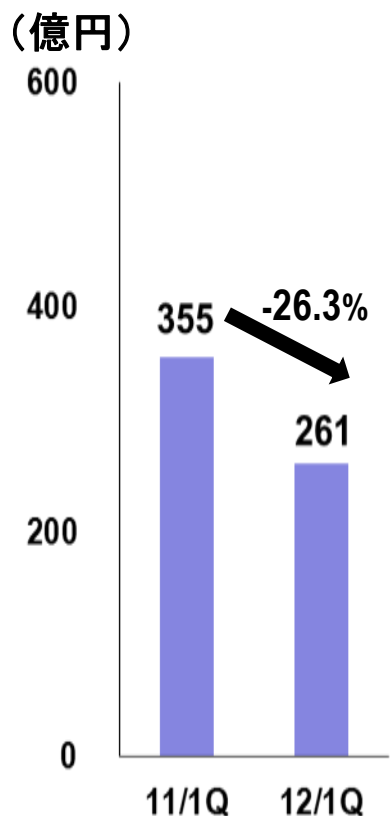
'12.6

(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

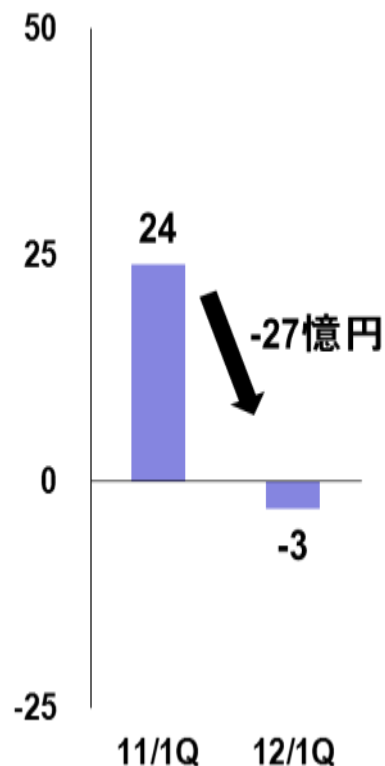
(億円)	売上高				営業利益			
	11年度 1Q	12年度 1Q	差異	増減率	11年度 1Q	12年度 1Q	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	355	261	-93	-26.3%	24	-3	-27	—
電子材料・化成品	469	437	-31	-6.7%	32	16	-15	-49.1%
ヘルスケア	349	312	-37	-10.7%	72	38	-34	-47.5%
製品	560	549	-11	-2.0%	11	7	-3	-30.9%
計	1,733	1,560	-173	-10.0%	138	58	-80	-57.8%
その他	163	184	+21	+12.8%	3	4	+1	+36.3%
消去又は全社	—	—	—	—	-31	-32	-2	—
合計	1,896	1,743	-152	-8.0%	110	30	-81	-73.0%

①高機能繊維・複合材料事業(旧・高機能繊維+ポリエステル繊維(産業資材))

売上高



営業利益



(億円)	11/1Q	12/1Q	差異	増減率
売上高	355	261	-93	-26.3%
営業利益	24	-3	-27	-

◆事業概況

◇アラミド繊維:

パラアラミド繊維:

- ・ 摩擦材、タイヤ補強、光ファイバー用途は堅調
- ・ 一般産業用途の一部や、防弾・防護用途の需要が調整局面に

メタアラミド繊維:

- ・ 円高・欧州景気後退により輸出低迷

◇炭素繊維・複合材料:

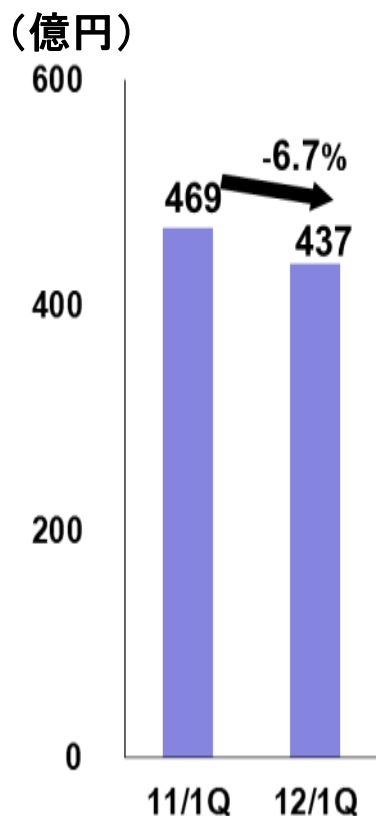
- ・ 航空機用途は順調な出荷継続、コンパウンド堅調
- ・ シェールガス生産の拡大に伴い、圧力容器用途の北米需要増
- ・ スポーツ・レジャー用途等、アジア向け軟調

◇ポリエステル繊維(産業資材):

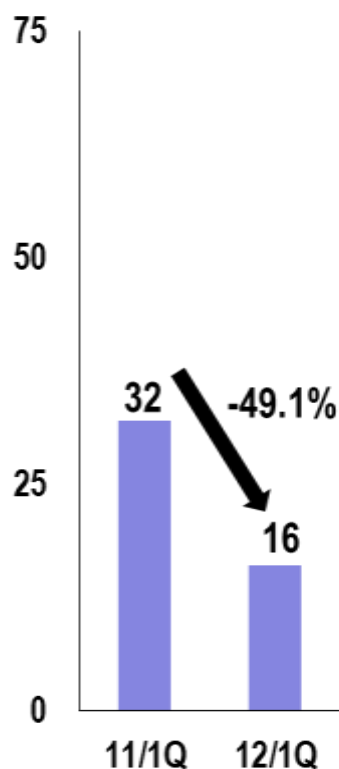
- ・ 自動車用途が堅調に推移

②電子材料・化成品事業(旧・化成品)

売上高



営業利益



(億円)	11/1Q	12/1Q	差異	増減率
売上高	469	437	-31	-6.7%
営業利益	32	16	-15	-49.1%

◆事業概況

◇樹脂:

電気・電子分野/自動車向けの出荷は順調に回復、
収益改善に向けコンパウンド品へのシフト推進

PC樹脂:

- ・ 主要原料価格は引き続き高値圏内推移、
販売価格の是正に注力

樹脂加工品:

- ・ 自動車関連用途が順調に推移
- ・ 逆波長分散フィルムの有機EL市場向け
拡販推進
- ・ タッチパネル向け透明導電性フィルム拡大

◇フィルム:

PET国内: エレクトロニクス市況は回復基調も
回復ペース鈍く、低水準で推移

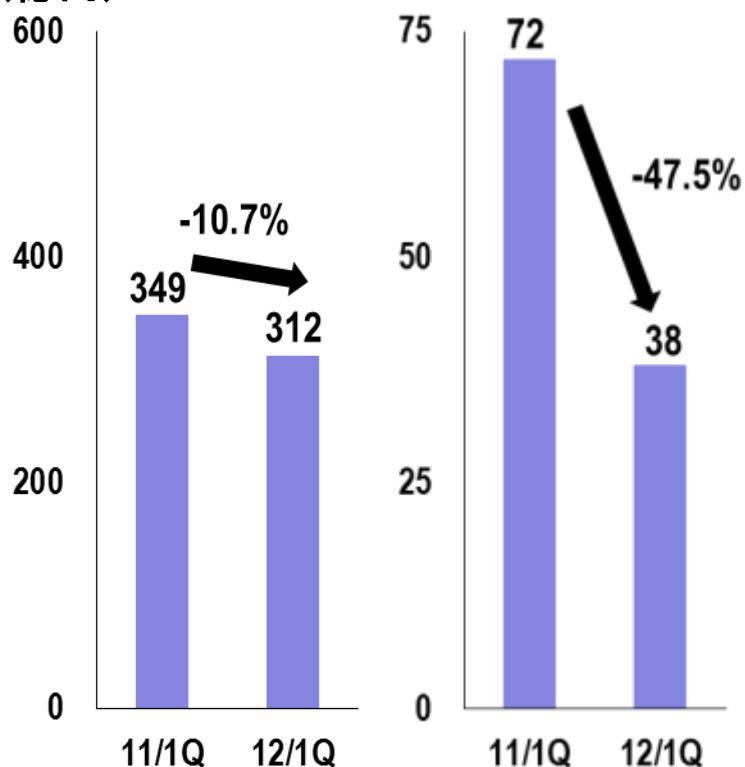
PET海外: 需給バランス失調により価格競争激化

③ヘルスケア事業(旧・医薬医療)

売上高

営業利益

(億円)



(億円)	11/1Q	12/1Q	差異	増減率
売上高	349	312	-37	-10.7%
営業利益	72	38	-34	-47.5%

◆事業概況

◇医薬品:

薬価改定に加え、骨粗鬆症治療剤の競争激化

- ・高尿酸血症治療剤「フェブキソスタット」
国内では長期処方解禁により着実に販売拡大
海外でも北米、欧州、韓国に続き、台湾で販売開始、順調に展開を拡大
- ・骨粗鬆症治療剤「ボナロン*」
日本初となる点滴静注型を上市(5月)

◇在宅医療:

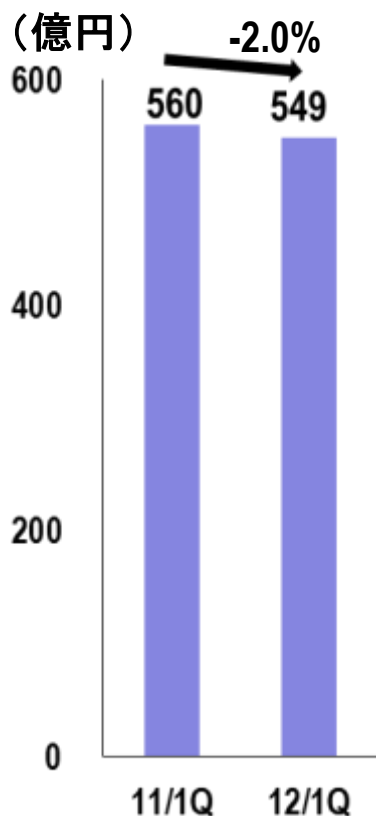
レンタル台数を伸ばし着実なスタート

- ・HOT:新機種レンタル開始
- ・CPAP:携帯電話網の活用によるモニタリング機能を搭載した「ネムリンク」を投入

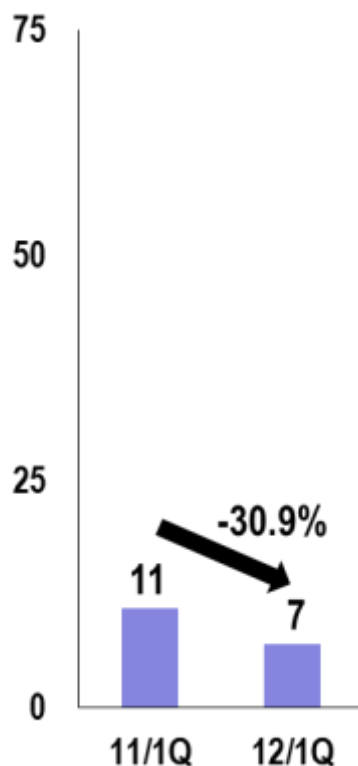
* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

④製品事業(旧・流通リテイル+ポリエステル繊維(アパレル))

売上高



営業利益



(億円)	11/1Q	12/1Q	差異	増減率
売上高	560	549	-11	-2.0%
営業利益	11	7	-3	-30.9%

◆事業概況

◇流通・リテイル:

衣料繊維:

- ・首都圏での春夏物出荷(ニット製品、紳士スーツ、フォーマル)は堅調なスタート
- ・名岐地区アパレル向け、原糸・テキスタイルの販売不振により減収

産業資材:

- ・自動車関連需要は好調継続
- ・一般資材(建築土木関連、不織布等)も堅調

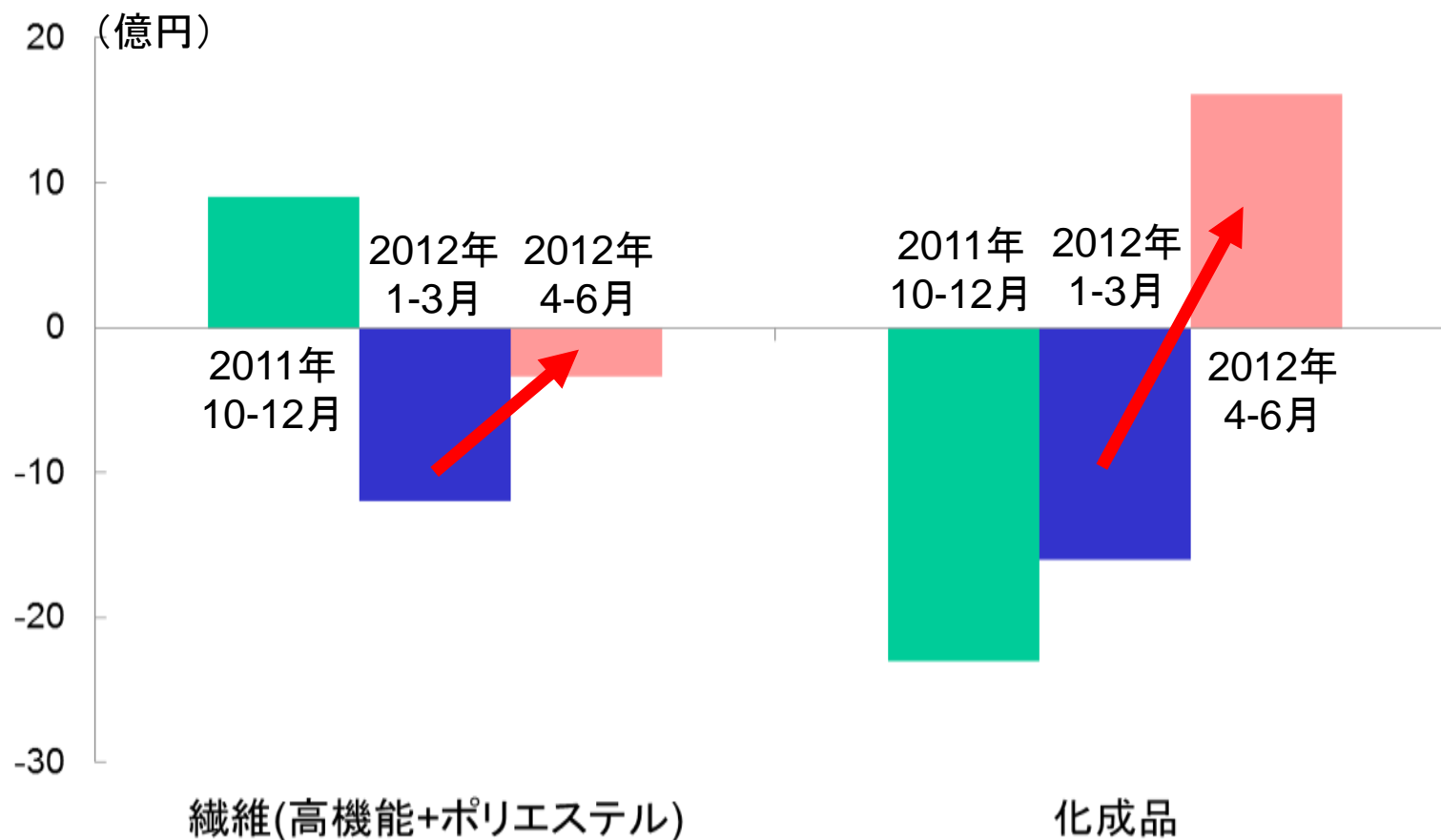
◇ポリエステル繊維(アパレル):

- ・市況軟調、競合他社との価格競争激化

◆ 暦月ベース* 損益推移

* 比較のために、2012年1-3月の営業利益実績を期ずれなしで国内・海外とも合算

全ての素材事業において、前期の在庫圧縮アクションが奏功し、4月以降の稼働率向上に伴って、樹脂事業を中心に損益が改善



通期業績見通し

(1) 環境見通し

中国など 新興国を含めて経済の成長鈍化が鮮明化

IMFは7月に各国成長率見通しを改定

(%)	2011年	2012年			2013年
	実績	1-3月	4-6月	年間予測	年間予測
米国	1.7	1.9	1.8	2.1 ⇒ 2.0	2.4 ⇒ 2.3
欧州	1.5	-0.0	-2.1	-0.3	0.9 ⇒ 0.7
中国	9.2	8.1	7.6	8.2 ⇒ 8.0	8.8 ⇒ 8.5
日本	-0.7	4.7	1.6	2.0 ⇒ 2.4	1.7 ⇒ 1.5

IMF、中国国家统计局、日本総研データより

● 欧州財政問題の長期化

欧州経済は2012年度通年でマイナス成長の予測

⇒ 財政予算緊縮化、各種公共プロジェクトの見直し・実施時期先送り

(影響例) アラミド繊維(防弾・防護)、炭素繊維(圧力容器、風力発電)、フィルム(太陽電池)

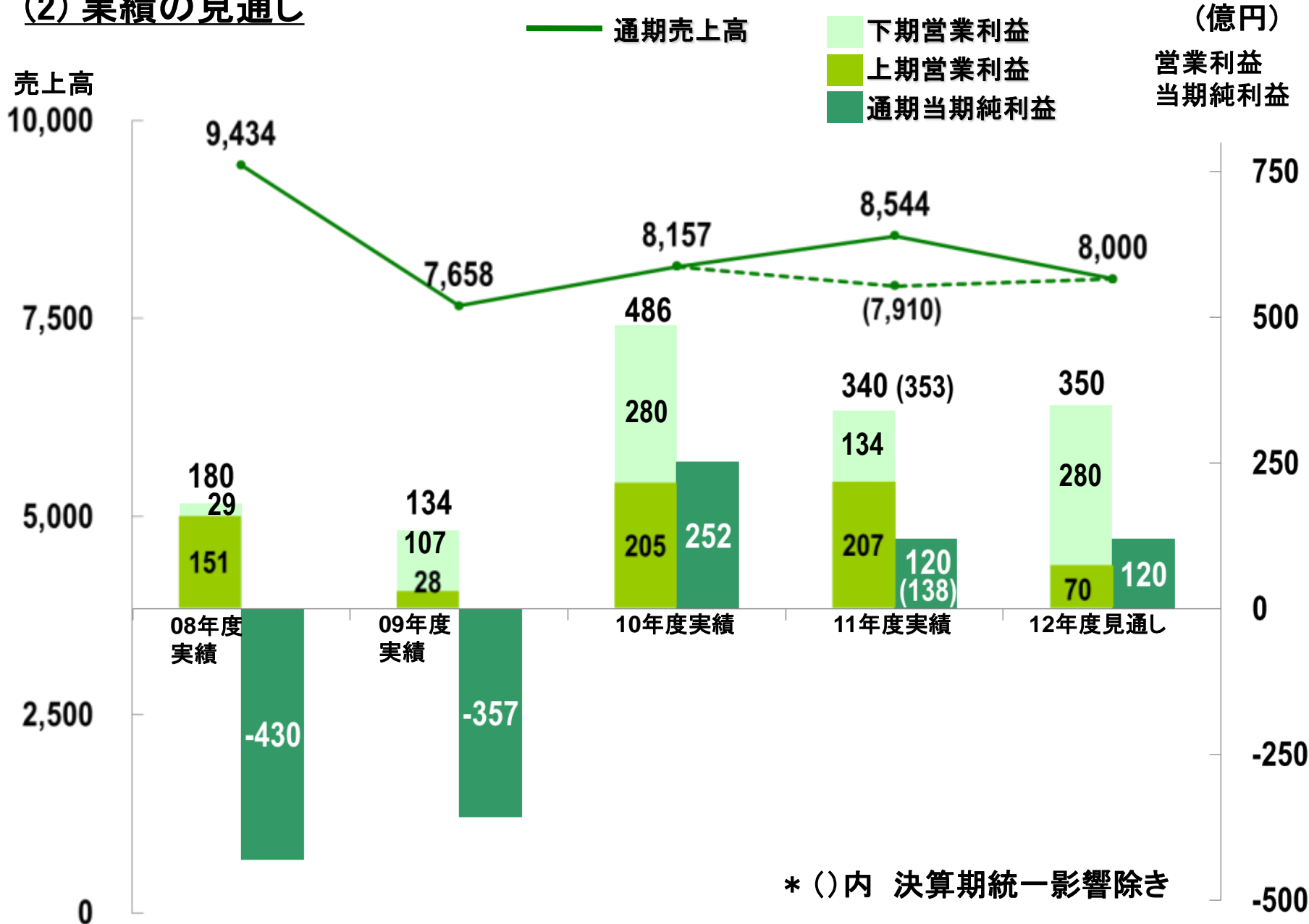
● 中国経済の減速

欧州向け輸出減少、経済成長率は2012/4-6期まで、6四半期連続で悪化

(影響例) 化成品・電子材料、炭素繊維(スポーツ・レジャー)

⇒ 需給バランスの軟化が再燃し、価格競争が激化

(2) 業績の見通し



(3) 通期業績見通しの概況

(億円)	11年度 実績	12年度 見通し	差異	
			金額	%
売上高	8,544 (7,910)	8,000	-544 (+90)	-6.4% (+1.1%)
営業利益	340 (353)	350	+10 (-3)	+2.8% (-0.9%)
<営業利益率>	4.0% (4.5%)	4.4%	—	+0.4% (-0.1%)
経常利益	343 (359)	330	-13 (-29)	-3.7% (-8.0%)
当期純利益	120 (138)	120	+0 (-18)	+0.2% (-13.0%)

EBITDA*1	863	850	-13
設備投資*2	323	500	+177
減価償却費	523	500	-23
研究開発費	318	340	+22
FCF	185	150	-35

* ()内 決算期統一影響除き

■ 2012年度見通し前提

通期為替レート 米ドル = 80円
ユーロ = 97円

原油価格(Dubai) = 105米ドル/バレル

2011年度及び2012年度配当予想

(円/株)	11年度	12年度 見通し	差異
中間配当	3.0	3.0	—
期末配当	3.0	3.0	—
年間配当	6.0	6.0	—

(億円)	12年 3月末	13年 3月末	差異
総資産	7,621	7,800	+179
(在庫)	(1,090)	(1,100)	(+10)
有利子負債	2,610	2,500	-110

*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

*2: 設備投資には無形固定資産を含む

(4) セグメント別 売上高・営業利益推移(前年対比)

(億円)		11年度実績					12年度見通し		
		上期	下期	計	決算期 統一	年間	上期	下期	年間
売上高	高機能繊維・複合材料	719	639	1,358	174	1,532	550	650	1,200
	電子材料・化成品	930	877	1,806	347	2,154	900	950	1,850
	ヘルスケア	680	715	1,395	35	1,430	650	850	1,500
	製品	1,232	1,319	2,550	77	2,627	1,200	1,350	2,550
	計	3,560	3,549	7,110	633	7,743	3,300	3,800	7,100
	その他	375	425	801	0	801	400	500	900
合計		3,936	3,975	7,910	633	8,544	3,700	4,300	8,000
営業利益	高機能繊維・複合材料	55	11	66	6	72	5	25	30
	電子材料・化成品	57	-8	49	-12	37	20	60	80
	ヘルスケア	119	145	264	-5	259	90	190	280
	製品	28	38	66	-0	66	20	50	70
	計	259	186	445	-11	434	135	325	460
	その他	13	24	37	0	37	15	30	45
	消去又は全社	-66	-63	-130	-2	-131	-80	-75	-155
合計		207	146	353	-13	340	70	280	350

(注) 平成24年3月期の数値を会社組織改革後の報告セグメントの区分に組み替えて表示しています。

なお平成24年3月期の実績については会計監査前の数値であり、変更の可能性があります。

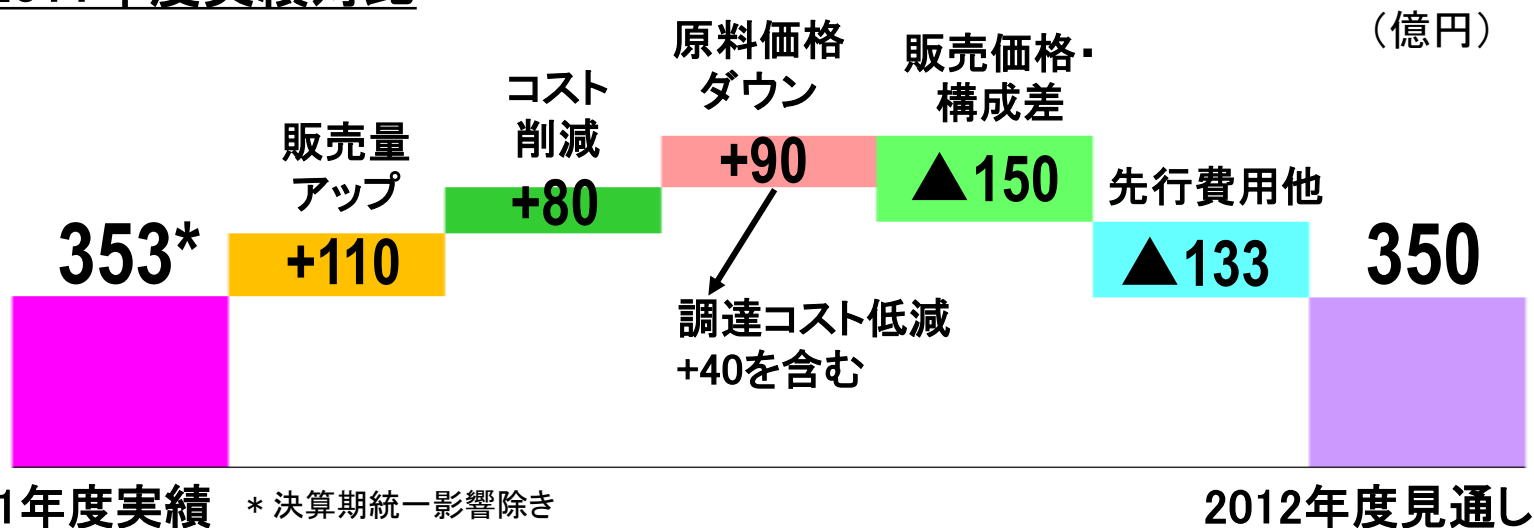
セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見通し対比)

(億円)		前回見通し*			今回見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	700	750	1,450	550	650	1,200	-250
	電子材料・化成品	950	1,000	1,950	900	950	1,850	-100
	ヘルスケア	700	800	1,500	650	850	1,500	—
	製品	1,250	1,350	2,600	1,200	1,350	2,550	-50
	計	3,600	3,900	7,500	3,300	3,800	7,100	-400
	その他	400	500	900	400	500	900	—
合計		4,000	4,400	8,400	3,700	4,300	8,000	-400
営業利益	高機能繊維・複合材料	50	60	110	5	25	30	-80
	電子材料・化成品	30	50	80	20	60	80	—
	ヘルスケア	120	160	280	90	190	280	—
	製品	25	45	70	20	50	70	—
	計	225	315	540	135	325	460	-80
	その他	15	30	45	15	30	45	—
	消去又は全社	-80	-75	-155	-80	-75	-155	—
合計		160	270	430	70	280	350	-80

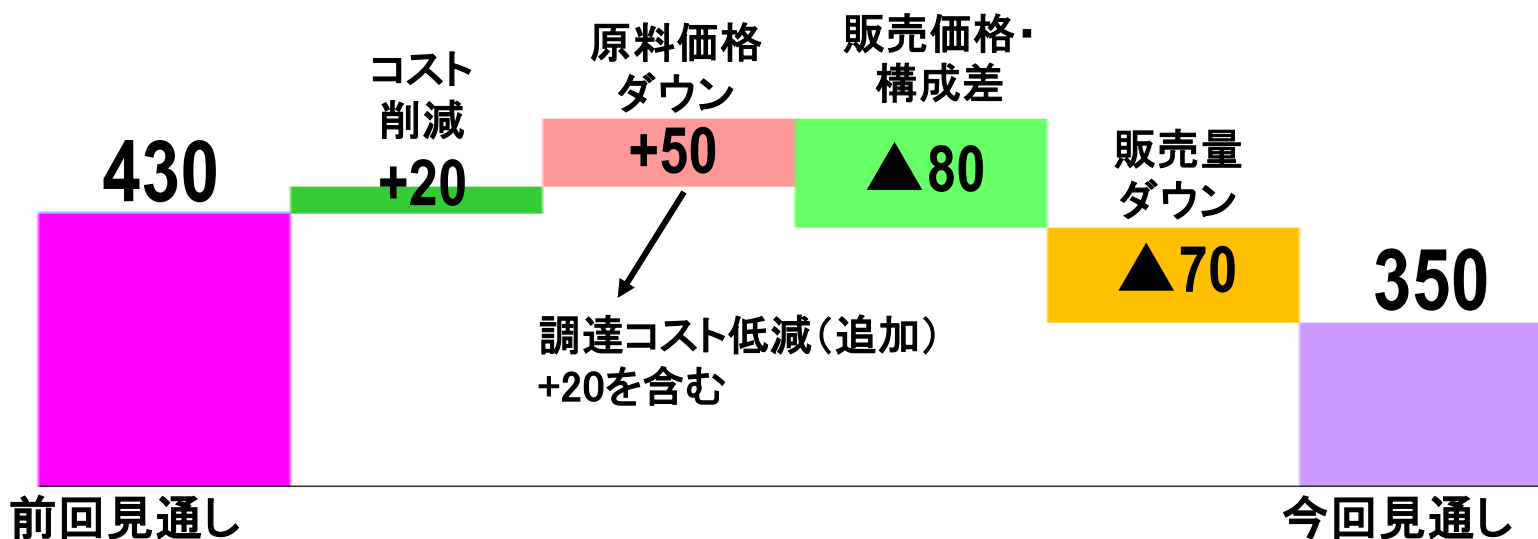
*前回見通しは2012年5月9日に公表

(5) 営業利益増減内訳

◆ 2011年度実績対比



◆ 前回見通し対比



(6) 上期 ⇒ 下期の営業利益改善要因

- マクロ経済の成長率は鈍化傾向ながら、下期へ向けて緩やかな改善トレンドは不変
- 加えて、各事業では以下の要因により、下期にかけて損益は改善

(億円)

	上期	下期	上下差	主な増益要因	
高機能繊維・ 複合材料	5	25	+20	拡販	自動車関連用途、新興国向け光ファイバー
				コスト削減	アラミド定修影響、タイ完全復旧、リサイクルパルプ活用(アラミド繊維)
電子材料・ 化成品	20	60	+40	拡販	PETフィルム:LED-TV向け反射板、高耐久太陽電池BS 樹脂:コンパウンド品へのシフト加速、加工品の販売拡大 (透明導電性フィルム、逆波長分散フィルム)
				コスト削減	樹脂定修影響、原単位改善
ヘルスケア	90	190	+100	拡販	フェブリク(国内、輸出)、ポナロン新剤形、CPAP
				コスト削減	医療機器材料費、営業経費
製品	20	50	+30		季節差、コスト削減(組織統合他)
その他	15	30	+15		IT事業季節差

コスト削減：「全社コスト構造改革推進部会」を設置し、技術生産、調達・物流、販売費・一般管理費の各領域でのコスト削減と、グループ機構改革により、全社的なコスト削減を推進

(7) 重点拡大事業の環境認識と今後の見通し

“CHANGE for 2016”の初年度として、ポートフォリオ変革等の諸施策を積極推進中

事業	足下の環境	中長期トレンド
高機能繊維 ・複合材料	・欧州債務問題等に起因するマクロ景気の停滞・減速	・「軽量化による省エネ」「安心・安全の向上」のニーズは不変であり、高成長を継続
【高機能繊維】 アラミド繊維 他	・欧米の財政緊縮策により、防弾・防護など一部の用途の需要が調整局面	・新興国需要の大幅拡大期待(光ファイバーケーブル、防弾・防護、インフラ関連等) ・自動車関連用途の安定成長 ・新規商品/用途の拡大(海底油田関連資材、超高分子量ポリエチレン製品等)
【炭素繊維 ・複合材料】	・後発メーカーの相次ぐ参入により競争激化	・航空機用途の安定成長 ・CFRPの自動車向け採用の動きが加速 ・一般産業向けも風力発電、圧力容器向けを中心に需要拡大
ヘルスケア		・高齢化社会の進行、生活習慣病の拡大
医薬品	・骨粗鬆症分野の競争激化 ・フェブリクの長期処方解禁	・ボナロン新剤形投入によるシェアの維持拡大 ・フェブリクの国内外での順調な拡大
在宅医療	・SAS循環器ガイドライン改定 ⇒循環器科からの処方拡大	・CPAPの高成長維持 (新機能搭載タイプ上市、スリープラボ拡大)

中長期の収益ドライバーとしての「重点拡大事業」の位置づけは不変

(8) 主要経営指標

	08年度 実績	09年度 実績	10年度 実績	11年度 実績	12年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.9%	1.6%	6.1%	4.5%	5%
ROE：当期利益／自己資本*1	-12.3%	-12.4%	9.1%	4.2%	4%
売上高営業利益率	1.9%	1.8%	6.0%	4.0%	4.4%
D/Eレシオ*2	1.18	1.18	0.94	0.89	0.9
自己資本比率	35.0%	33.0%	37.3%	38.3%	37%
1株当たり当期純利益(円)	-43.7	-36.3	25.6	12.2	12.2
1株当たり配当金(円)	5.0	2.0	5.0	6.0	6.0
総資産(億円)	8,742	8,231	7,615	7,621	7,800
有利子負債(億円)	3,613	3,203	2,674	2,610	2,500
EBITDA(億円)*3	853	753	1,050	863	850

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

見直しに関する注意事項と事業等のリスク

見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

医薬医療事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2012年8月2日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆ 連結貸借対照表

	(億円)	11年 3月末	11年 6月末	11年 9月末	11年 12月末	12年 3月末	12年 6月末
資産 合計		7,615	7,820	7,845	7,758	7,621	7,397
流動資産		3,369	3,583	3,694	3,756	3,618	3,521
固定資産		4,246	4,238	4,151	4,002	4,003	3,877
負債・純資産 合計		7,615	7,820	7,845	7,758	7,621	7,397
負債		4,538	4,683	4,742	4,697	4,499	4,402
(内 有利子負債)		2,674	2,846	2,880	2,850	2,610	2,547
純資産		3,077	3,138	3,103	3,060	3,122	2,995

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	11年度				12年度	11年1Q 12年1Q 比較
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
売上高	1,896	2,040	2,019	2,589	1,743	-152
売上原価	1,339	1,479	1,478	1,996	1,275	-64
売上総利益	557	561	541	593	468	-89
販管費	447	465	444	557	439	-8
営業利益	110	96	97	37	30	-81
営業外損益	18	-8	2	-9	-8	-25
(内 金融収支)	-4	-9	-7	-15	-3	+1
(内 持分法投資損益)	26	13	8	6	4	-22
経常利益	128	89	99	27	22	-106
特別損益	-1	-19	-18	-27	-25	-24
税前利益	127	70	81	0	-3	-130
法人税等	59	35	22	32	16	-43
少数株主損益	5	6	-0	-0	-2	-7
四半期純利益	63	29	59	-31	-16	-79

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 営業外損益

(億円)	11年度 年間	12年度 1Q
受取利息	6	1
受取配当金	7	4
持分法による投資利益	53	4
為替差益	2	—
雑収入	11	4
営業外収益 計	80	13
支払利息	49	9
為替差損	—	8
雑損失	28	5
営業外費用 計	77	21
営業外損益 計	2	-8

◆ 特別損益

(億円)	11年度 年間	12年度 1Q
固定資産売却益	3	1
投資有価証券売却益	13	—
関係会社株式売却益	7	—
洪水関連差益	3	—
その他	3	0
特別利益 計	29	1
固定資産除売却損	10	2
投資有価証券評価損	2	8
減損損失	26	7
震災関連費用	3	—
洪水関連費用	—	9
退職給付制度改定損	33	—
その他	20	0
特別損失 計	94	26
特別損益 計	-65	-25

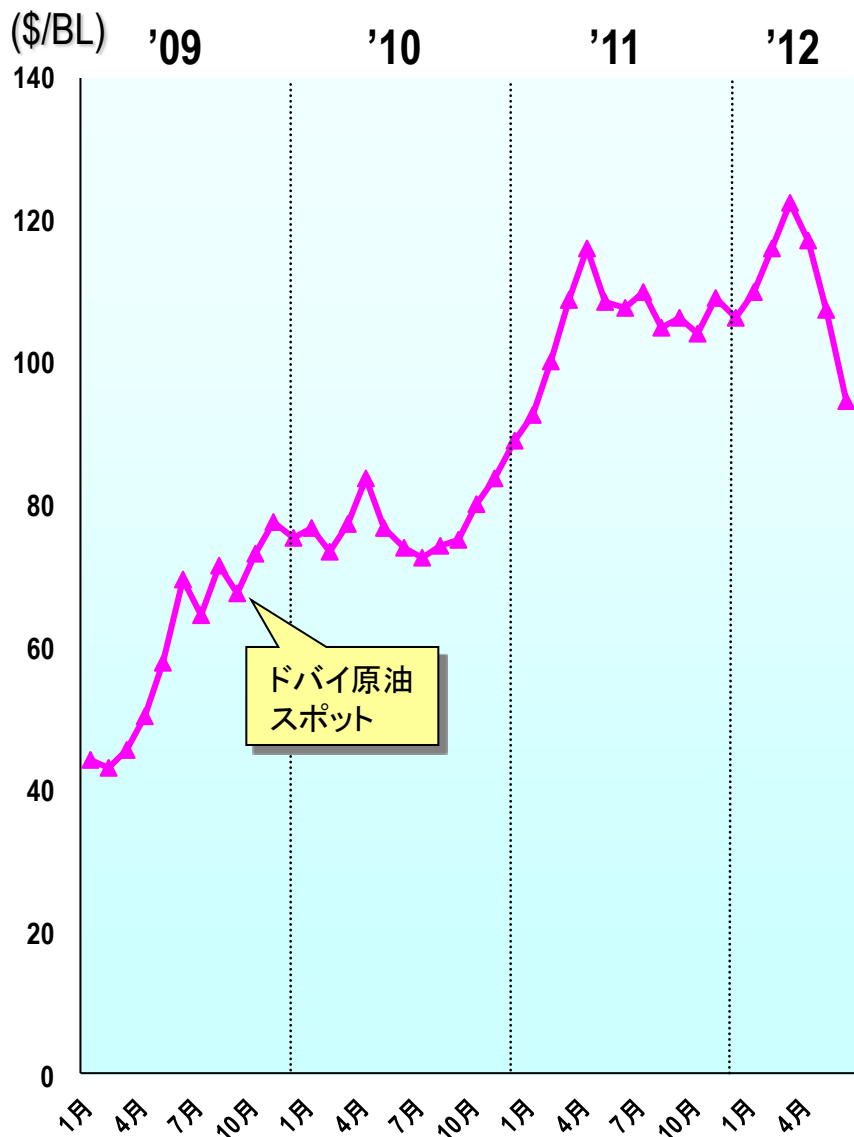
◆2012年度通期業績見通し

(億円)	11年度実績					12年度見通し			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	下期	年間
売上高	1,896	2,040	2,019	2,589	8,544	1,743	1,957	4,300	8,000
営業利益	110	96	97	37	340	30	40	280	350
経常利益	128	89	99	27	343	22	38	270	330
当期純利益	63	29	59	-31	120	-16	16	120	120

EBITDA *	225	214	214	211	863	143			850
減価償却費	114	117	117	175	523	114			500
研究開発費	72	80	74	93	318	76			340
FCF	-132	-34	12	340	185	49			150

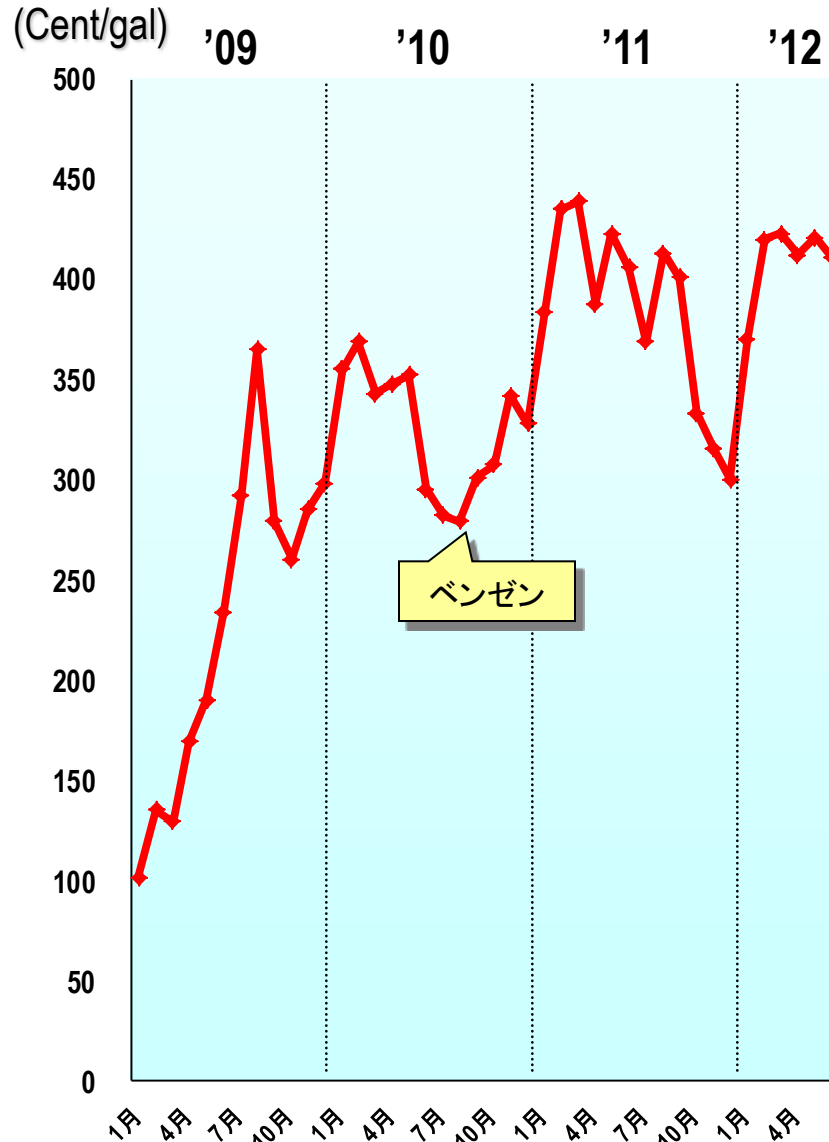
*EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

◆ドバイ原油価格推移



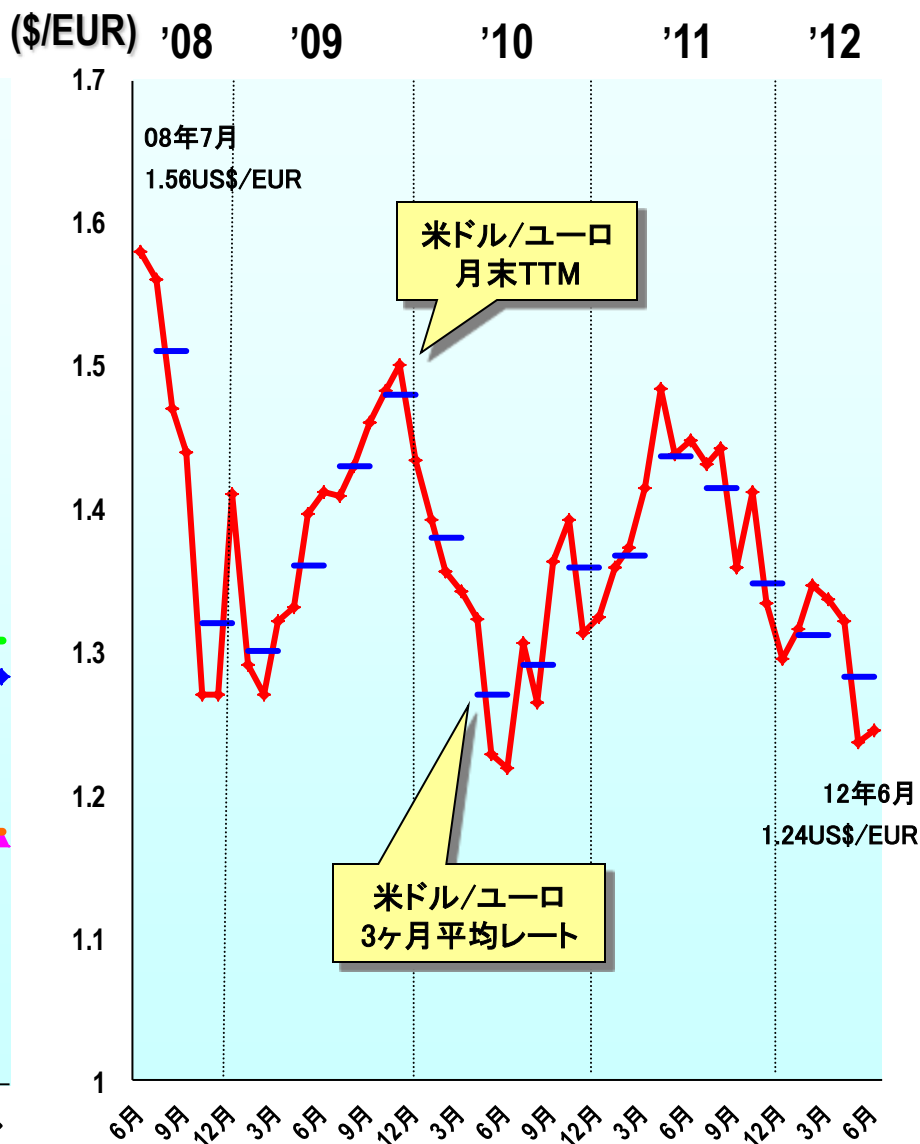
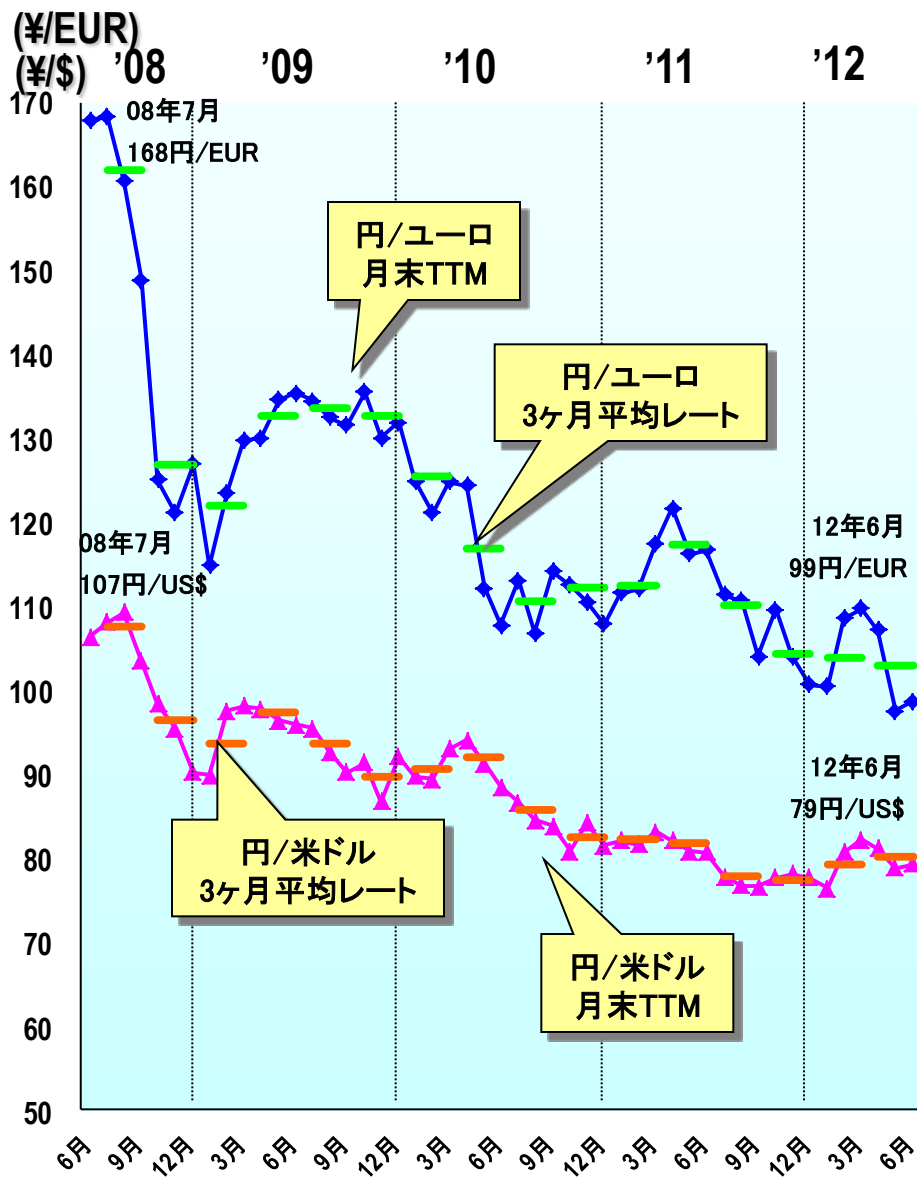
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ベンゼン価格推移

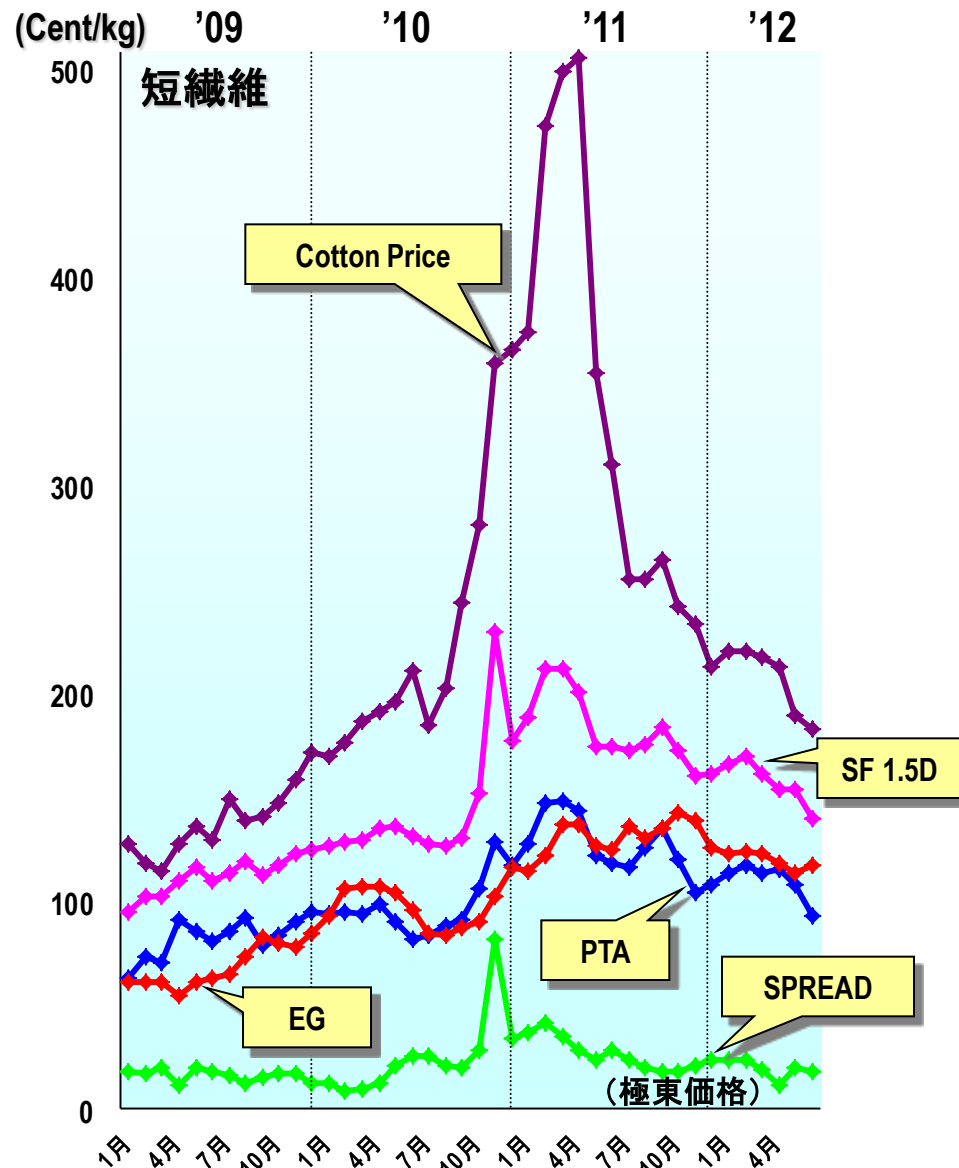
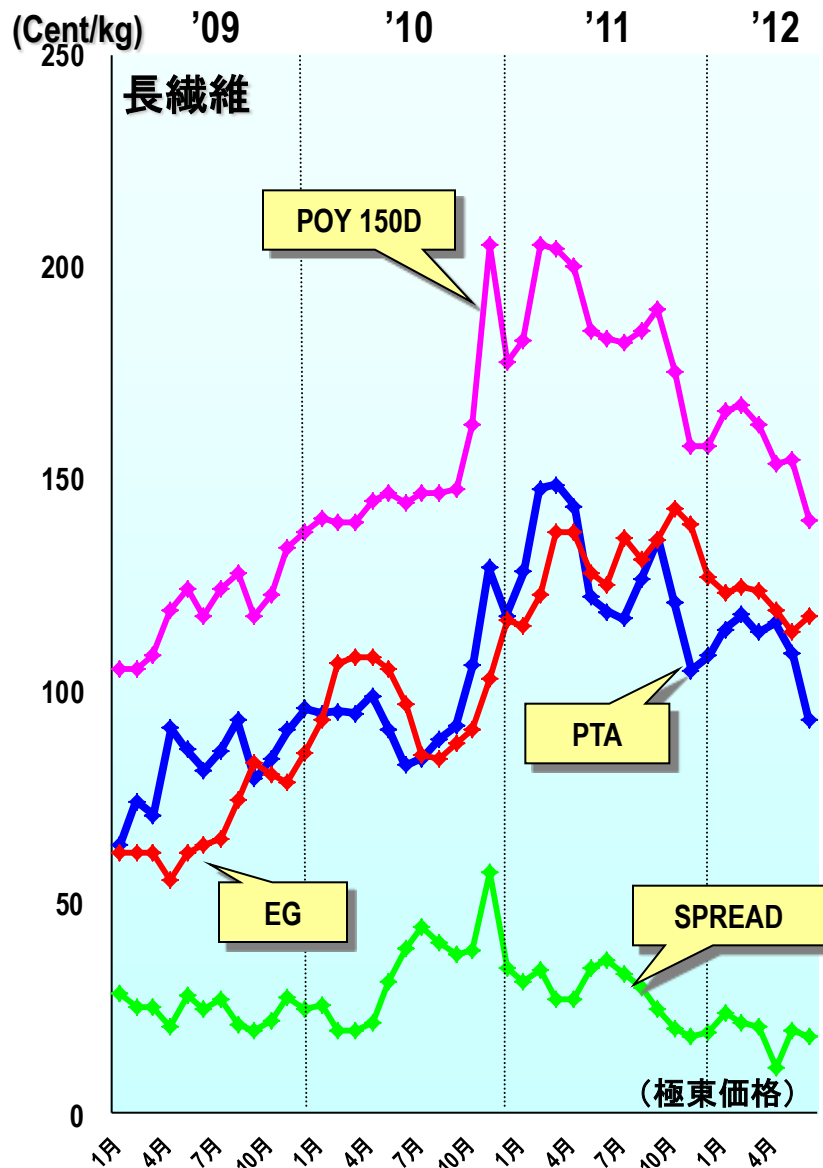


【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆円 / 米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆ポリエステル繊維売値・原料価格推移



【出所:PCIのDATAを基に弊社推定】

◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	11年度					12年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	52	52	54	47	205	33
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	27	27	30	27	111	18
骨粗鬆症治療剤計		79	79	84	74	316	51
ムコソルバン®	去痰剤	24	21	30	24	99	21
ベニロン®	重症感染症治療剤	23	22	26	23	94	24
ラキソベロン®	緩下剤	10	10	11	10	42	10
サイビスクディスポ®	変形性膝関節症の 疼痛緩和剤	4	4	5	3	17	4
トライコア®	高脂血症治療剤	3	4	6	2	15	4
ボンアルファ®	角化症治療剤	3	3	4	3	14	4
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	4	13	3
スピロペント®	気管支拡張剤	2	2	3	2	10	2
フェブリック®	高尿酸血症治療剤	5	0	1	3	9	7

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆疾患分野別臨床開発段階 (2012年6月末現在)

*承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域		ITM-058* ²		GTH-42J [ボナロン®]	GTH-42V* ¹ [ボナロン®]
呼吸器 領域	NA872ET [ムコソルバン®]				
代謝・ 循環器領域		ITM-077 NTC-801			ITM-014* ³ [ソマチュリン®]
その他		GGs [ベニロン®] (適応追加: 顕微鏡的多発血 管炎)		TV-02H [ボンアルファ® ハイ軟膏] (中国)	

*1 GTH-42Vは2012年1月に製造販売承認を取得、2012年5月より販売開始

*2 ITM-058は2012年5月にPhase II 開始、

*3 ITM-014は2012年6月に製造販売承認を取得

* ボナロン® / Bonalon® は Merck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

* ソマチュリン® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

◆新規上市医薬品 (2012年6月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ボナロン® 点滴静注バッグ900μg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤「ボナロン」の注射剤。 経口剤を服用できない患者等への処方 が可能となり、服薬コンプライアンスの改 善や経口剤に比べて上部消化管障害の 低減が期待される。	注射	導入:米メルク社 2012年5月10日に国内販売 開始

◆承認済医薬品 (2012年6月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ソマチュリン® 皮下注 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症 下垂体性巨人症	先端巨大症及び下垂体性巨人症におけ る過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する 薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする 製剤処方とプレフィルドシリンジの採用に よって、現行の治療薬と比べて利便性と コンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入:仏イプセン社 2012年6月承認取得

* ボナロン® / Bonalon® は Merck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

* ソマチュリン® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

◆新規開発医薬品 (2012年6月末現在)

【申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TV-02H (タカルシトール水和物)	尋常性乾癬	国内販売しているボンアルファハイ軟膏20 μ g/gを中国に導出。既に中国で上市・販売している低濃度製剤(2 μ g/g)に加えることで、当該適応症における治療選択肢の幅を広げることが期待される。	軟膏	2010年9月低濃度製剤に対する補充申請(中国)
GTH-42J (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤「ボナロン」のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー剤を目指す。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入:米メルク社 2011年8月承認申請

【Phase II】

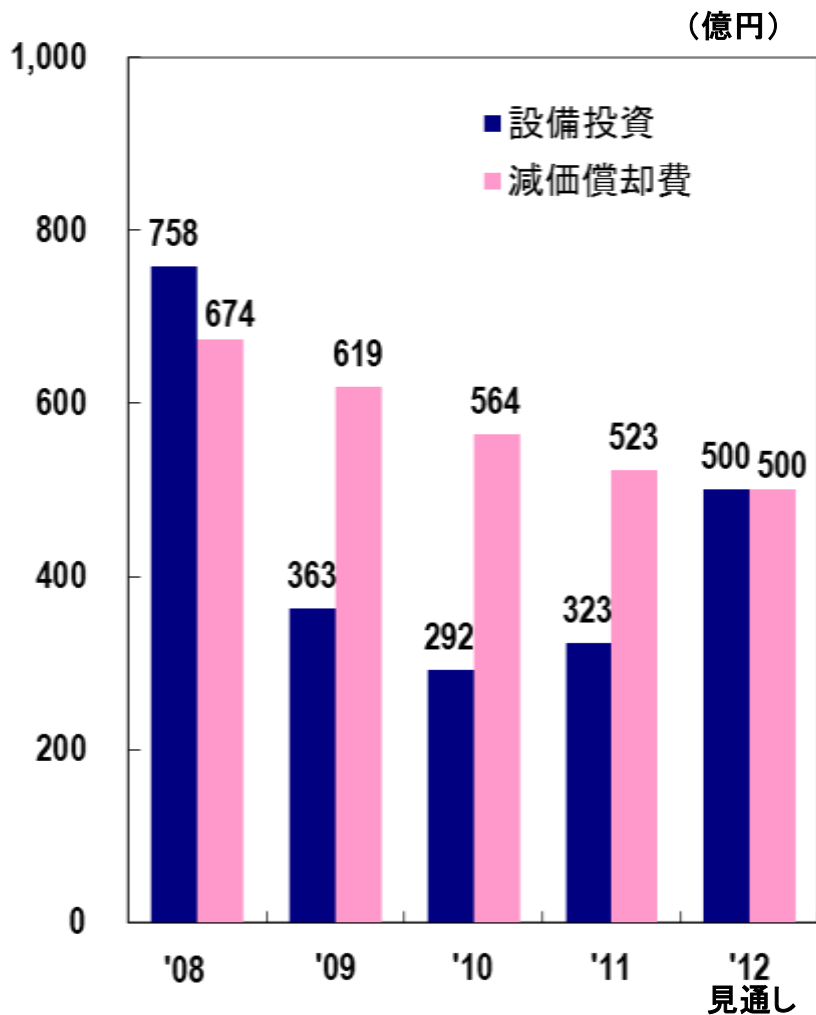
開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-077 (tasoglutide)	2型糖尿病	血中グルコース濃度に依存したインスリン分泌促進作用による血糖コントロール薬。低血糖リスクが少なく、体重減少作用を有する。 週1回投与が可能であり、利便性に富む。そのほか、インスリンを分泌する膵臓ベータ細胞の保護及び再生作用が期待される。	注射	導入：仏イプセン社
NTC-801	心房細動・粗動	心房選択的な心房細動・粗動の治療ならびに予防薬。 既存薬の問題点である心室性副作用(不整脈誘発作用、心機能抑制作用)が無いことが期待される。	錠剤	共同開発： 日産化学工業
GG5 (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (適応追加)
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待される。	注射	導入：仏イプセン社

【Phase I】

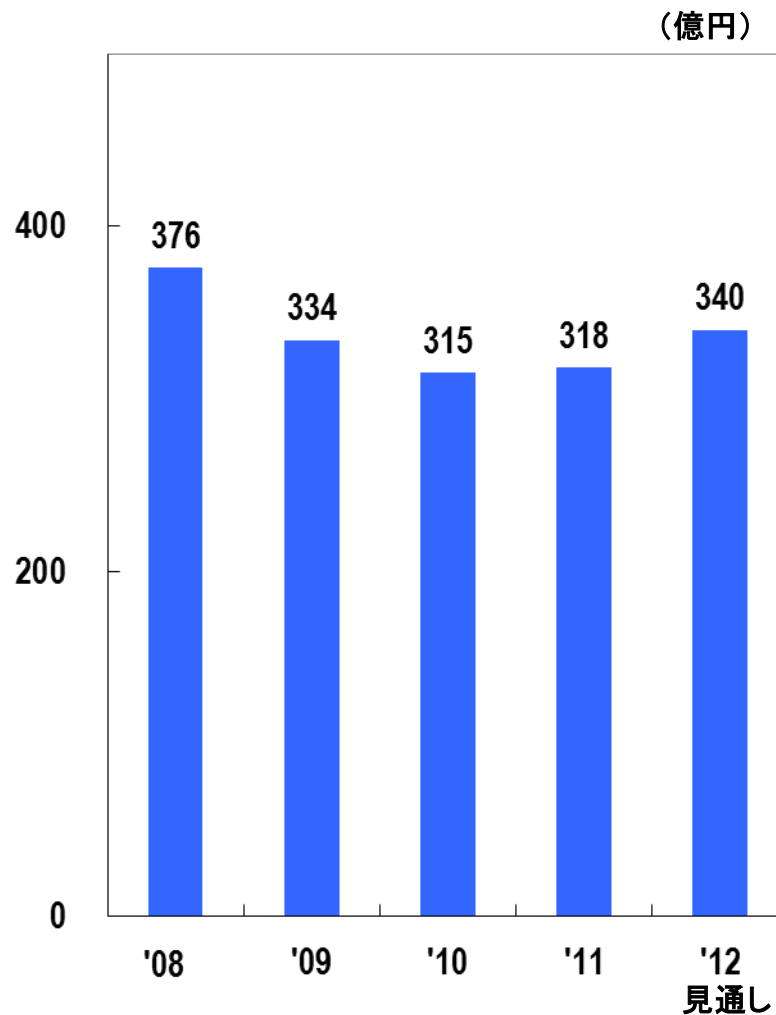
開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アンブロキシール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アンブロキシール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー ・インゲルハイム社

◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



TEIJIN*Human Chemistry, Human Solutions*

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。